

航空写真で見る学校の姿

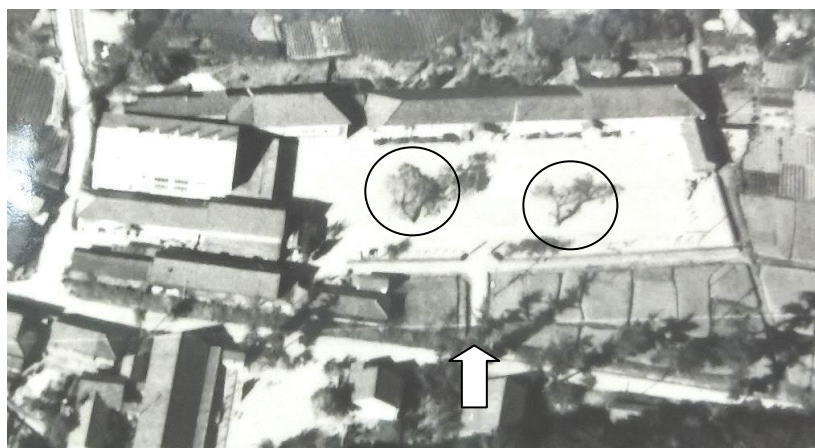
本校職員室前の廊下には、これまでの航空写真が飾られています。どの写真にも共通するのが、本校が国道一号線と旧東海道との間に挟まれた位置にあることです。1877年（明治10年）、元御殿跡の官有地に開校が決定して以来、ずっと変わらず現在に至っているのです。

しかし、よく見比べてみると敷地内の施設は、移動したり、新たに作られたりしています。時の流れの中で、その時代時代の足跡を残してきているのです。私たちは、風景が新しくなると、以前の風景を忘れてしまいがちです。そこで、本校敷地内の歴史に少し触れてみたいと思います。

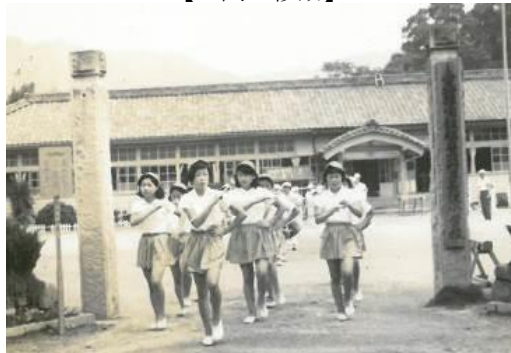
本校敷地内の歴史において、1967年（昭和42年）を境に大きく変化しました。上の写真が昭和42年より前、下の写真が昭和42年以降です。

【運動場にあった木の伐採】

左：黄金樹、右：せんだん



【正門の移動】



古い正門から出発する鼓笛隊。当時は大変盛んでした。



【運動場の拡張（四角い部分）】

現在は運動場の下にある川も見えています。



新しい正門。児童用と自動車用に分かれています。



今回は昭和42年にスポットを当ててみました。現在、運動場の隅にある岩石園は、当時のPTAの方々が造成したものです。学校の昔を知ることは、当時の人の思いを知るきっかけになるのです。